

啐啄同機



大阪市立榎本小学校

4月10日

NO、1

啐啄同機

「さいたくどうき」と読みます。

雛が卵の殻を破り生まれるために内側から突く「啐」と同じ場所を外から親鳥が殻を割る「啄」、これが絶妙なタイミングで行われることで孵化する。それを「啐啄同機」と言います。

禅の言葉で、学び手が学びたいと思ったときに、絶妙なタイミングで指導者が支援、指導を行う。そのタイミングこそが重要で、指導者の見極めの大切さを表す言葉でもあります。

子ども達の伸びの手助けをしたいという思いで、タイトルにしました。

さて、先日入学式を行いました。

135名の1年生を迎えることができました。とても元気な子ども達で楽しみです。

式でもお話ししましたが、「教育」は「協育」とも「共育」、「今日育」と書くこともできます。

教えて育むのが「教育」です。

学校と家庭、地域が力を出し合い、協力し育むのが「協育」です。

学校と家庭が同じ方向をむいて育むのが「共育」です。

先延ばしせず今、この時に子どもに向き合うことが「今日育」です。

お子さまは、新しいクラスや新しい先生のことをどう話していますか。お子さまも、新たな出会いの4月は、緊張することが多いと思います。お子さまの頑張りをぜひ応援し、褒めてあげてください。

不定期ではありますが、今年度も啐啄同機を発行してまいります。ご意見、ご感想がありましたらお寄せください。リクエストでも結構です。

昨年度に引き続き、今年度も本校の教育活動にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

